

センター統合を成功させるために

塩澤清恵

企業合併では、全社のシステムやリソースを合併会社の視点で最適化し直すことが求められるが、事務やシステムについては統合が難しく、すぐに経営の効率化に結びつくとは限らない。そこで事務・システムの統合と併行して、データセンターなどの物理的なリソースの統合を始めることが効果的である。本稿では、センター統合の検討の視点と実現施策について考察する。

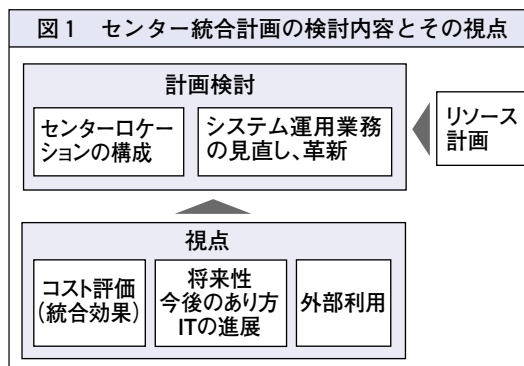
システム統合の2つの課題

合併によるシステム統合には、アプリケーション（事務・システム）の統合と、リソース（データセンターなど）の統合という2つの課題がある（表1参照）。しかし全社レベルの事務・システムの統合は難易度が非常に高く、概して時間がかかる。一方、センター統合などのリソース統合は、システム要件を明確にすれば実現しやすく、比較的早く統合の効果が現れる。合併事例の多い米国では、まずデータセンターの統合を行い、併行してアプリケーション統合を安全第一で取り組むケースもある。

データセンター統合計画検討の視点

まずセンター統合の計画策定を行う段階では、センターのロケーションやそこで運用する体制をどうするのかという検討を行うこととなる（図1参照）。

ロケーションの検討では、メインセンターと災害対策センターをどのような組み合わせにすべきか、自前のセンターか外部利用とするのか、データセンタ



ーと開発センター、事務センターなどの拠点をどう再編成するのかなど、さまざまな選択肢がある。その検討にあたっては、データセンターに求めるセキュリティ要件、信頼性要件、運用要件、また災害対策への基本的な考え方など、前提条件をはっきりさせておく必要がある。

システム運用業務についても、データ入力からシステム保守、印刷、デリバリーなどの業務全般にわたり、センター別に行われている業務をどのような組織体制で運営していくのか、外部委託する場合はどの業務範囲とす

表1 合併会社のシステム統合課題

課 題	実現策	効 果
物理的なリソースの統合	センター統合	場所、システム運用業務、運用要員、センターファシリティ、マシンリソースなどの最適化
アプリケーションの統合	事務・システムの統合	事務体系の一元化、事務体制の適正化 システム維持費用適正化

表2 実施段階での重点課題と施策の例

重点課題	実現施策
移行日に必ず成功させる	実行計画や実施手順の精度向上(計画品質の向上) 十分なテスト、リハーサルの実施とそのための日程・体制の確保
全体的な体制づくり	システムリソース(コンピュータ、回線など)全般の漏れのない確認 システム部門、ユーザー部門の広範な人員の参画や要員の業務調整
安全な移転の実施	重要システムの併設移行など、切替可能な移行方式の確立 本番に影響を与えず、移転をスムーズに行うための移行用のネットワーク構築
コンティンジェンシー	障害部位別に発生確度と発生した場合の業務への影響、判断タイミングとリカバリー方法などを記したコンティンジェンシーの立案・整理 戻し手順などの事前実施、時間計測
変更した体制での安定的な運用業務の実施	新メンバーによるオンサイト運用訓練の実施 業務が新メンバーで確実にこなせることの客観的判断(業務移管判断基準表)

るのか、どの程度のサービスレベルを求めるのかなど、運用体制の一元化を視野に新運営基準を整理することが必要となる。

また、近年、回線利用料の低下や遠隔地からのリモート技術の発達によりセンターの設置場所の自由度が向上していることに加え、ネットワーク接続の増大・高速化やセキュリティ対策の強化、サーバーの高度な運用監視、24時間365日連続運転、厳格な情報管理基準などが求められており、データセンターが備えるべき要件も変化してきている。将来にわたって自前でこのような要請に対応していくのか、専門業者を利用するのか、広範かつ多面的な視点で検討し、あるべき論、コスト評価を交えて決定していくことが必要であろう。

センター移転実施のポイント

さて、センターの移転・移行にともなって発生するリスクの低減が課題となるが、これに対処していく施策の一例を表2に示す。

データセンターを1カ所にまとめるには、

業務停止が許されるきわめて短時間に本番稼動システムの切り替えを行う必要がある。最も重要なのは、移行日に必ず成功させることである。失敗すれば、コストの増大だけでなく、業務に影響を与える可能性がきわめて大きい。また、最近の情報システムではコンピュータ間のデータのやり取りが非常に多く、かつ社外システムとの接続が多岐にわたっている。そのため移行前後に必要なネットワークをどう構築するかということも技術的にはたいへん重要なポイントである。

センター統合の後は、センターの有効活用、マシンリソースの最適化、システム間連携などの改善、運用システムの統合など、さらなる効率化のテーマに取り組み、合併会社のシステムとして一層の最適化とコスト削減を追求していくことになる。 ■

塩澤清恵 (しおざわきよしげ)
営業開発部 上席システムエンジニア
専門は保険関連のシステム設計・開発